

赤穂街道 探索マップ



NPO法人

相生いきいきネット

平成25年11月

赤穂街道について

赤穂街道は、西国街道を陸村で分岐し、那波を通過して赤穂城下に至る峠越えの街道です。以下に説明する地域は、いずれも旧赤穂藩領です。

このマップでは、陸から高取峠までの道をご案内します。高取峠には、江戸の道、大正の道、昭和の道があり、いずれの道も徒歩での通行が可能です。

陸村

陸地区は、江戸時代には西国街道が通る農村でした。明治23年に山陽鉄道那波駅（現相生駅）が設置され、駅前集落として発達しました。

西国街道の道標：是より右 さいこくみち、是より左 あかほ城下道 と記されています。この道標は、江戸時代に作られ、普光沢川と鮎婦川の間で赤穂街道分岐点にありましたが、道路の付け替えなどのため現在の位置に移設されたものです。大田南畝の小春紀行によると、1805年当時にこの道標があったと記されています。

一里塚：西国街道と赤穂街道の分岐点より少し西側に一里塚がありました（表紙地図参照）。

狐塚古墳：産業会館の敷地内にあり、横穴式石室をもつ単独墳のうち、相生市で最も古いとされていましたが、産業会館の建設で消滅しました。

苧谷橋：みっちゃん橋とも呼ばれています。

那波村

那波地区は、那波五箇村の鎮守である那波八幡神社を有し、回船の出入りする港町として栄えました。

那波荒神社：古宮荒神社とも呼ばれ、この近くまで海だったと言われていました。

道路元標：大正8年の旧道路法で各市町村の起点として1個ずつ設置するとされていました。

豆煎り荒神：神功皇后の三韓征伐ゆかりの神社。赤地の鼻にありましたが平安末期に移設、再建したと言われていました。

孝行井戸：神崎与五郎が神のお告げを受けて、この井戸水で眼病の母親の目を洗うと不治の病が治ったという伝説が残っています。

得乗寺：16世紀に寺号を許可されたお寺で、和泉式部ゆかりのしだれ栗の木があります。

大井戸：昔は村人の生活用水、酒・醤油造りに広く使われていました。

馬つなぎ石：馬をつないでいたという石。

大島山：初代海老名家季の築城と伝えられる城跡があり、頂上には善光寺と住吉神社があります。

那波八幡神社：那波浦の郷社で文治2年（1186）創建と伝わる市内有数の神社です。

丘の台：那波中から中央公園にかけて那波浦城がありましたが、遺構はほぼ消滅しています。

那波村（続き）

大避神社：白鷺鼻にある秦河勝を祀る神社です。中央公園に秦河勝漂着の石碑があります。

室井先生碑：那波の医者で、村の子供に漢籍・和歌を教えました。

佐方村

佐方地区は、元来農村であり、一部廻船業を営む者もいました。旧前山町や高取町は、造船所の社宅として成立しました。

佐方川河口：かつては船着場があり、ノリ採取が行われ、カブトガニが棲んでいました。

旧工和橋：今の工和橋より上流にありました。

馬洗い清泉：高取峠を往来する馬の足を洗っていました。

村境石標：相生村との境界を示しています。

相生村（千尋）

道路標識にも記されている通り、江戸の道、昭和の道の大部分は大字相生に属しています。

峠の茶屋：看板が立てられています。

延命地藏：明和9年（1772）の銘がある古いお地藏さんで、高取峠を往来する人々の安全を見守っています。



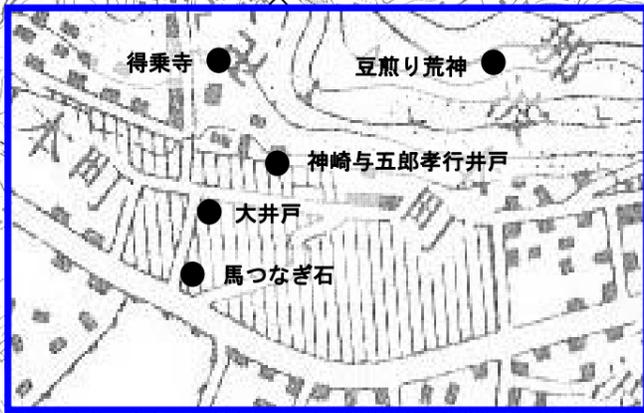
那波八幡神社



神崎与五郎孝行井戸



豆煎り荒神



那波村道路元標



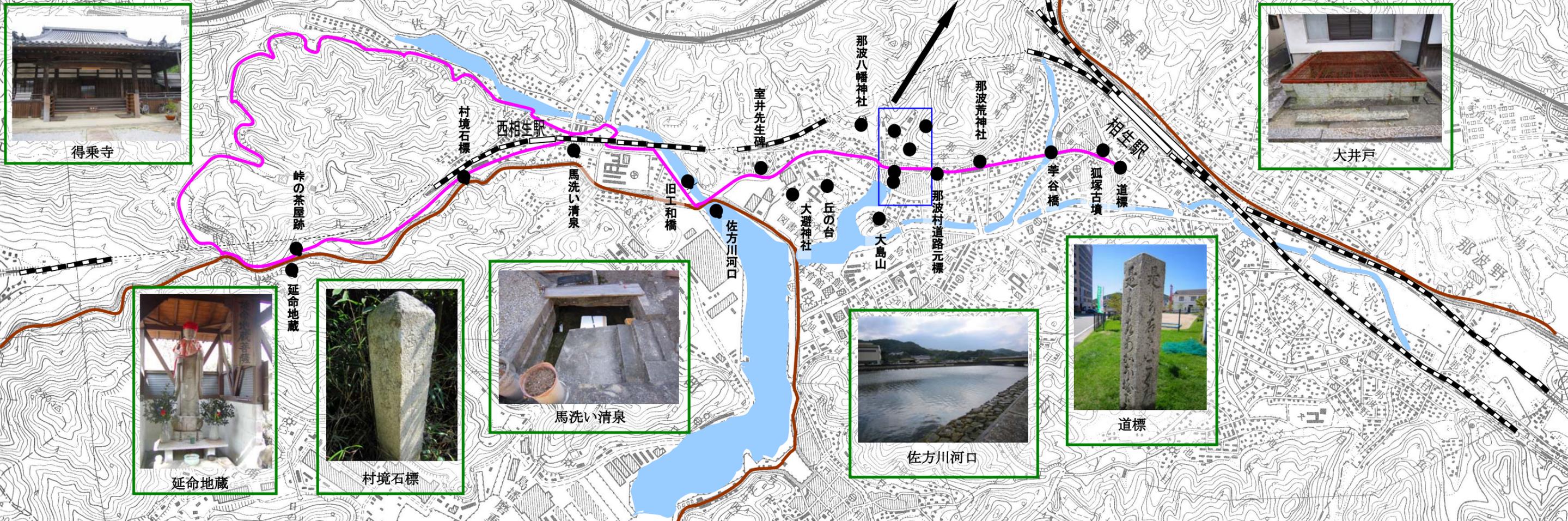
那波荒神社



得乗寺



大井戸



延命地蔵



村境石標



馬洗い清泉



佐方川河口



道標